

学生と教員の見方

【学生の見方&考え方】

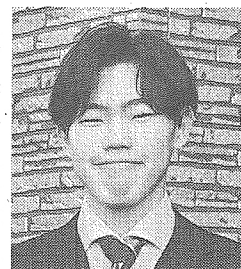
(3年 黒越陽向)

現地調査で、NIPPO NIA佐原商家町のレセプション「KAGURA棟」を訪れた。当初はこの建物はどう使われていたのか分からなかったが、調査を進める中で、かつては酒蔵として地域の暮らしと関わっていたことを知った。建物の歴史を知ること、ただ文化の一端を担っていた存在であると理解できた。

模型で考える伝統と更新②

り大がかりな曳家工法が採用された。これは建物全体を一度持ち上げて横にスライド移動させることで、作業空間を確保し、地中にコンクリート基礎を新設するための工程である。旧来の石場建てや石の基礎では耐震性に不安があるため、鉄筋コンクリートの新たな基礎を構築し、構造の根本から安全性を高めていた。この様子からは、「見えない部分まで丁寧に直した」印象が強く残った。

外観は美しく整えられ、昔ながらのデザインが残されている。内装は現代的な快適さを保ちつつ、柱や梁



【アピールポイント】
空間デザインが好きで前島ゼミでは建物の基礎を学びつつリフォームをやる予定です。

極力残し、歴史の風合いを大切にしたい」という言葉が印象に残っている。私はもともとリフォームに興味があったが、今回の調査で「古いものを生かすこともまたデザインである」と実

「リフォームは直すだけじゃない」

KAGURA棟で学んだ建築姿勢

屋根裏には、火災時の延焼を防ぐための防火壁が新たに設けられていた。現代の建築基準に即したこうした

【教員による展開】
(前島彰子教授)

外観は美しく整えられ、昔ながらのデザインが残されている。内装は現代的な快適さを保ちつつ、柱や梁

屋根裏には、火災時の延焼を防ぐための防火壁が新たに設けられていた。現代の建築基準に即したこうした

ゼミ活動では構法模型の製作を通して、その不動産が建てられた時代背景や地域との関係を探っている。

この元酒蔵は、建物の中央部分に2階床を備えている。ホテルの収益性を重視

するならば2階を客室として使うことも選択肢になり得たであろう。ただし、その場合、防火の観点から木部は耐火材で覆われ木の現しは断念されることになり、黒越さんが指摘している、「時間の重みを感じる」空間は失われてしまう。

黒越さんは現地調査で、観光まちづくり会社の人とホテル支配人から説明を受けたときのことを報告している。新しい材で置き換えるかたちのリフォームとは異なり、古い材が生み出す当時の雰囲気と、その安全な利用を

この元酒蔵は、建物の中央部分に2階床を備えている。ホテルの収益性を重視

するならば2階を客室として使うことも選択肢になり得たであろう。ただし、その場合、防火の観点から木部は耐火材で覆われ木の現しは断念されることになり、黒越さんが指摘している、「時間の重みを感じる」空間は失われてしまう。

【訂正のお知らせ】新聞記事に一部誤りがありました。

誤：不動産の話題

[85]

正：不動産の話題

[86]